



Save the Children

セーブ・ザ・チルドレン ニュースレター

March 2026 No.88



特集

新しい一歩を応援する

～まなびの支援～

(イメージ)

# 〈中高生の教育費負担〉実態調査から見た現実

セーブ・ザ・チルドレンは、経済的や生活上の困難がある世帯を対象に、中学・高校の入学に関わる費用の一部を支給する「子ども給付金～新入学サポート～」を実施しています。2025年の給付金の利用世帯に対し、中学・高校の卒業・入学にかかった具体的な費用や、政府への要望に関するアンケート調査を実施し、2025年10月に調査結果を公表。この結果をもとにセーブ・ザ・チルドレンは、困難な状況にある子どもの“学ぶ権利”を保障するため、「授業料以外の費用に対する経済的支援の拡充」「学用品の備品化、購入品の選択肢の拡大」といった提言を報告書内にまとめ、文部科学省をはじめとした関係省庁に提出しました。



## 実態1 制服代が1年で約1万円も上昇

卒業・新入学時にかかった費用について、「制服代」「卒業アルバム代」「教科書・教材費」「パソコン・タブレット代」で**2024年度調査より金額が上昇。特に制服代は中1、高1どちらも約1万円上昇**していました。また、中高生の約8割が「親がお金のやりくりが苦しかった」と回答するなど、授業料以外に家計を圧迫する私費負担の実態が明らかになりました。

## Q 卒業・新入学（入学式まで）にかかった費用について教えてください。

費目	回答数	中1		高1		
		平均額	24年調査時の平均額※	回答数	平均額	24年調査時の平均額※
制服代	183	6万4,656円	5万6,331円	175	8万621円	7万615円
卒業アルバム代 (DVD代を含む)	100	1万3,682円	1万1,587円	66	1万2,641円	1万1,853円
教科書・教材費	79	1万6,840円	1万5,801円	184	3万6,404円	3万4,549円
パソコン・タブレット代	-	-	-	108	7万9,657円	7万732円

(保護者、自由記述) ※2025年は回答数が50を超える費目のみ集計した。

※2024年調査「セーブ・ザ・チルドレン 子ども給付金～新入学サポート2024～利用者アンケート調査結果報告書」(2024年7月)  
[https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-shinnyugaku\\_riyo2024.pdf](https://www.savechildren.or.jp/news/publications/download/report-shinnyugaku_riyo2024.pdf)

## 「経済的に困難な子育て世帯の中学・高校の就学費用負担に関する実態調査」概要

調査報告書はこちら▼

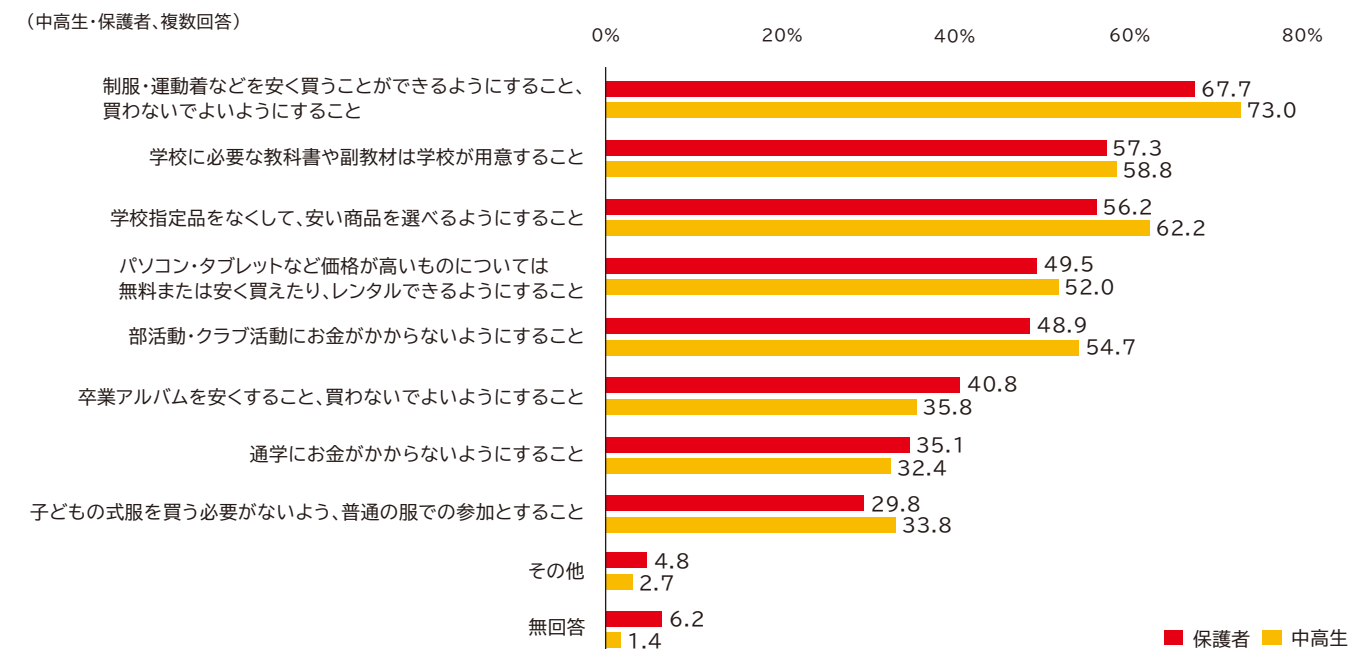
- 調査対象：セーブ・ザ・チルドレンが実施した「子ども給付金～新入学サポート 2025～」利用世帯
- 調査方法：利用世帯に対し、オンラインアンケートを案内し任意回答
- 調査期間：2025年8月1日～8月17日
- 有効回答数：保護者436人、中学生148人
- 調査協力：千葉工業大学 福嶋尚子准教授(調査票・報告書への助言、講評)専門：教育行政学



## 実態2 学校指定品の費用が大きな負担に

卒業・新入学時に必要な支援は保護者、中学生どちらも約7割が「制服・運動着などを安く買えるようにすること」と回答し、最多となりました。ほかに、「学校に必要な教科書や副教材は学校が用意すること」「学校指定品をなくして、安い商品を選ぶようにすること」も半数以上が選択しました。

## Q 卒業・新入学にかかる費用についてどんな支援が必要だと思いますか。



(イメージ)



(イメージ)



(イメージ) 3

# 保護者と子どもたちの声

調査に寄せられた保護者そして、子どもたちからの声の一部を紹介します。

**Q** 中学・高校入学費用を含む学校生活にかかる費用全般（授業料、制服代、通学費、教科書・教材代、学校指定品にかかる費用、修学旅行費、部活動など）について、具体的な懸念や政府への要望があれば教えてください。

制服や体育着、学校指定用品について、なぜ店もしくは企業までも選択できないのか、不思議でなりません。類似品を用意して何か問題があるのか？あれば知りたいです。

（中1の母、ひとり親、50代、東京都）

修学旅行にかかるお金が非常に高いので、後から支給ではなく先に立て替えてくれるか、就学援助の給食費のように支払いをなくしてほしい。先に払えるくらいお金の余裕があるなら、そもそも困っていない。

（中1の母、ひとり親、40代、岡山県）

学校指定品をなるべく少なくしてほしい。工業高校で使う特殊な機材なども他社と比較して買えると安いものを見つけられたらありがたい。

（高1の母、ひとり親、30代、埼玉県）

高校を義務教育化してほしい。給食をつけてほしい。高校によってかかる費用が全く違うので統一してほしい。

（高1の母、ひとり親、50代、長野県）

**Q** あなたがいま、まなぶために心配なこと、困っていること、子どもたちのまなぶ環境をよくするために大人や学校、市町村、政府に伝えたいことがあれば、書ける範囲で具体的に教えてください。

学校で一律みんなにかかるお金が高いので、安くなると思います。入学してから宿泊研修があったり、私の中学では、中学一年生の終わりで修学旅行の集金があるそうです。去年お母さんに小学校の修学旅行のお金を払ってもらったばかりなのに、また払ってもらうのかと思うと心配になります。

（岡山県、中1）

教科書や私達の勉強に必要な物は全て国から無償で提供して欲しい。学んでこの国を背負う私達なのに、学びたい人達も負担ばかりで学べない人もいる。

（神奈川県、高1）

ひとり親家庭、しかもその親が障害者であり、しかも、私自身も障害者である場合、他の生徒よりも学業や学費両方の負担を減らしてほしい。

（岡山県、高1）

塾にも通うお金はなく、家で勉強するのに、テキストを買う必要があり、文房具にもお金がかかる。現物支給でいいので定期的にしてほしい。

（長崎県、中1）

# すべての子どもたちが安心して学べる環境を実現したい

喜ばしいはずの卒業・入学において、制服代や学用品費などが家計への大きな負担となっています。パソコン・タブレットなど、今や学びのインフラとして欠かせないものも家庭で用意しなければならない場合があり、「卒業・入学を素直に喜べない」「親に申し訳ない」といった子どもや保護者の声が寄せられています。セーブ・ザ・チルドレンは給付金事業を行っていますが、私たちだけではすべての子どもの状況を変えることはできず、もどかしさを感じています。改善には、国や自治体に子どもや保護者の窮状を訴えていくことが必要です。私たちは、給付金事業と並行して、政府や自治体に就学援助などの支援拡充、学用品の見直しと備品化などを求めています。こうした要望を受け、2025年の政府の「骨太の方針」にも学用品の備品化について記載が盛り込まれました。前進はありますが、より安心して学べる環境を実現するため私たちは引き続き政府に働きかけていきます。



国内事業部子どもの貧困問題解決事業プログラムオフィサー  
鳥塚 早葵（とりづか さき）

## セーブ・ザ・チルドレンはこれからも 子どもの貧困問題解決に取り組んでいきます

### 2026年も「子ども給付金～新入学サポート～」を実施

詳しくはこちら▶



「子ども給付金～新入学サポート～」では、特定の生活上の困難があり、かつ経済的に困難な状況にある世帯で、当団体が定める申請条件を満たす世帯を対象に、中学・高校の入学に関わる費用の一部を支援しています（子ども1人につき、中学入学時3万円、高校入学時に5万円を給付、返還の必要なし）。東北地域で就学支援のため2016年に開始し、2022年からは対象地域を全国へ拡大。2022年から2025年までに、のべ3,640人が同給付金を利用しています。2026年も「子ども給付金～新入学サポート～」を実施しました（1月に締切済み）。

## 災害後の子どもの日常を守るために 助成プログラム「能登子どもスポーツ・文化ファンド」

2024年能登半島地震および同年9月の奥能登豪雨の影響を受けた子どもたちを対象に、スポーツや文化活動の継続を応援する助成プログラム「能登子どもスポーツ・文化ファンド」を行い、非営利で子どもたちのスポーツ・文化活動を行う51団体へ助成金を提供し、取り組みの継続を後押ししています。助成先の中から3団体の活動の様子を紹介します。

〔輪島市〕輪島の伝統芸能・和太鼓を演奏

### 輪島高洲太鼓

輪島高洲太鼓は、小学生から高校生が中心となり、輪島の伝統芸能である和太鼓の演奏を行っている団体です。仮設住宅に住みながら自宅の再建をしている世帯もあるなか、イベント出演のためのガソリン代や宿泊費が負担になっていました。そこで、セーブ・ザ・チルドレンは移動費を含む幅広い経費を助成の対象とし、これらの費用を支援しました。子どもたちは、「太鼓が楽しい!」と笑顔で話しながら、力強い掛け声と演奏を体育館に響かせていました。



〔珠洲市・能登町〕合同チームで練習

### 珠洲ロイヤルスターズ・内浦ミニバスケットボール教室

珠洲ロイヤルスターズと内浦ミニバスケットボール教室は、震災後の人口減少により、単独でチームを編成できなくなりました。そこで合同チームを結成。お互いの地域を往来して練習を続けているため、移動にかかるガソリン代がかさみ、各世帯の大きな負担となっていました。セーブ・ザ・チルドレンは、ガソリン代や大会参加費など、活動継続にかかるさまざまな経費を支援。震災後に能登を離れたものの、練習に参加するために夏休みの間だけ戻ってきている子もいました。



〔珠洲市〕400年の歴史を誇る祭り

### 飯田町燈籠山祭り保存会

400年続く飯田町燈籠山祭りにて、子どもたちが伝統の担い手として燈籠山の一部を製作しています。祭りの費用は地域の各世帯が資金を出し合っていますが、震災後は、住宅の再建などで経済的に厳しい状況が続いています。そこで、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもたちが作る燈籠山の資材費などを支援しました。祭り当日は例年以上の人出で賑わい、子どもたちによる踊りも披露されました。



## 紛争下の教育を攻撃から守る「学校保護宣言」 署名キャンペーン報告

紛争下で学校や大学が攻撃され、子どもや教員が危険にさらされる「教育への攻撃」が拡大しています。セーブ・ザ・チルドレンは「学校保護宣言」への日本政府賛同を求め、9ヶ月間の署名活動を実施。集まった署名を外務省と防衛省に届け、担当部署と意見交換を行いました。

### 「学校保護宣言」への政府賛同を求める署名を呼びかけ

世界各地で紛争が多発する中で、学校や大学が武力攻撃の標的とされたり、子どもや教員が誘拐・負傷・殺害されるといった「教育への攻撃」がこの5年間で約3倍にも増えています<sup>(1)</sup>。この現状を受けて、セーブ・ザ・チルドレンでは2025年に協力団体やユースメンバーとともに『学校保護宣言キャンペーン』を実施しました。学校・大学での出前授業やメディア発信、さまざまなイベント企画を通じて紛争下の教育の現状を伝えるとともに、学校や大学を攻撃や軍事利用から守る「学校保護宣言」への政府賛同を求めて、約9ヶ月間にわたり署名協力を呼びかけました。



### 日本政府に1万7,479筆の署名を届けました

「学校保護宣言」は、2015年に策定された国際的な指針で、2025年12月現在で世界122ヶ国が賛同しています。2025年11月にケニアで開催された第5回「学校保護宣言ナイロビ国際会議」では、賛同国政府や国際機関、紛争影響下で暮らしている子ども・教員たちが参集し、子どもたちが守られ、教育を継続的に受けられるようにするための最新の取り組みなどが議論されました。セーブ・ザ・チルドレンスタッフも参加し、キャンペーンの報告を行ったほか、会場では日本のユースメンバーも制作協力したメッセージ映像が上映されました。同会議では日本政府による出席は実現しませんでした。その直後の国会質疑では、外務大臣より「日本として賛同できるかは検討したい」との答弁もありました。

2026年1月、全国各地から寄せられた署名を外務省と防衛省に届け、それぞれの担当部署と意見交換を行いました。両省庁とも、キャンペーン活動を注視していたとのことで、1万7,479筆の署名を省内で共有するとのコメントがありました。意見交換ではユースメンバーとともに、各地の子ども・学生たちや署名者の方々

から寄せられた声を代弁する形で、「平和主義や国際法の遵守を掲げる日本がなぜ賛同していないのか」、「厳しい国際情勢にある今こそ賛同し、国際社会と歩みを進めてほしい」などと訴え、「ナイロビ会議」での各国報告についても情報提供を行いました。キャンペーンによって、多くの市民やメディア関係者に「教育への攻撃」の実態を知ってもらい、日本政府内の課題認識を高めることができた実感しています。しかし、宣言賛同に向けては引き続き取り組みが必要です。2026年も、紛争下の教育について多方面に発信を行うとともに、政策決定者にも働きかけていきます。



## パレスチナの子どもたちが 学び、遊び、安心して暮らせる日々を

1967年以来、占領下にあるパレスチナのガザ地区では、2007年からイスラエル軍により陸・海・空が封鎖され、ほとんど人の出入りが認められていません。

封鎖以降、ガザ地区はたびたび空爆され、多くの市民が犠牲になってきましたが、2023年10月7日以降の攻撃では未曾有の被害が出ており、これまでに7万人以上(うち子ども2万人以上)の市民が犠牲になりました。



セーブ・ザ・チルドレンの支援で学用品を受け取る子どもたち

## 現地の状況

ガザ地区では、人的被害だけでなく、家屋やインフラへの被害も深刻です。国連の報告によると、ガザ地区の建物の8割が全壊または半壊しており、攻撃対象であってはならない民家・学校・医療施設・商業施設も多く含まれています。実際に、564校ある学校のうち526校が被害を受けています。

2025年11月10日の「停戦合意」以降は、教育現場の復旧が行われているものの、798人の教育関係者が殺害された影響もあり、63万7,000人以上の子どもが依然として教育を受けられていません。また、高度医療を提供する病院36のうち6割が破壊され、1万8,000人以上がガザ地区域外での治療を必要としています。海外からの緊急医療班が域内でも活動していますが、施設や物資の不足により限界があります。そして、この2年間に1,700人以上の医療従事者も殺されました。また、上下水道施設も9割近く破壊されたため、ガザ地区の8割を超える人が清潔な水を利用できず、感染症の蔓延も深刻です。

さらに、住民の6割に及ぶ128万人には、安全に暮らす家すらありません。

ガザ地区は冬を迎えています。冬は雨季でもあり、時折激しい雨やみぞれが降ります。排水システムも破壊されているので浸水被害が甚大で、12月に入ってからは子どもの凍死が報告されています。汚水が混じる冷たい水に浸かったテントに、容赦なく吹き付ける雨風。テントが風で飛ばされる様子が伝わってきています。幸い、停戦合意後ガザ地区に入る物資は増え、国連から、ガザ地区の「飢饉」<sup>(1)</sup>が解消されたとの報告もありました。しかし、いまだに食料安全保障レベルは危機的で、2歳未満の9割の子どもが一日2回以下の食事しか摂れず、29万人の母子に栄養支援が必要と報告されています<sup>(2)</sup>。そして、停戦合意がなされてからも、既に500人以上の市民が攻撃により犠牲となっているとの報道もあります(2026年1月末現在)。

## セーブ・ザ・チルドレンの活動

セーブ・ザ・チルドレンは、こうした厳しい状況の中、現地のパートナー団体と活動を続けてきました。例えば、この2年間で、ガザ地区の2ヶ所の診療所で11万人以上の母子に一次医療を提供しました。また、1万人以上の栄養不良の母子を治療するとともに、3,000人近い子どもにポリオの予防接種を行いました。そして、学ぶ機会も遊ぶ機会も失った子どもたちが孤立しないよう、「こどもひろば」20ヶ所以上を設置し、子どもたちに居場所を提供しました。こどもひろばでは、子どもが子どもらしく過ごせる時間を確保し、話を聞き、必要に応じて医療機関への紹介を行うなど、子どものための精神保健・心理社会的支援を実施しました。そして、91万人以上に飲料水を、40万人以上に食料や現金を届け、人々が命をつなぎ、生きるための活動を続けてきました。



栄養不良の治療を受けるアルマさん

アルマさん(18ヶ月)の母親であるカメラアさんはこう話します。「娘はこの年で2回、急性栄養不良に陥りました。食べ物がガザ地区に届かないからです。しかし、この2ヶ月セーブ・ザ・チルドレンの診療所に通い、2回目の栄養不良から回復しつつあります。セーブ・ザ・チルドレンのスタッフは、自分たちも仕事や生活のプレッシャーがある中で、とても親切に対応してくれます」。



ガザ地区でセーブ・ザ・チルドレンとパートナー団体の支援を受ける子ども

ガザ地区だけではなく、入植者やイスラエル軍による暴力が悪化するヨルダン川西岸地区でも活動を続けています。ここ数年、西岸地区の入植地は増加の一途をたどっていますが<sup>(3)</sup>、この間入植者やイスラエル軍による攻撃で、避難を余儀なくされた人は4万人に上ります<sup>(4)</sup>。私たちは、3万4,000人以上に、食料や水、衛生キットなどの提供を通じた緊急支援を実施するとともに、2万8,000人の子どもたちに精神保健・心理社会的支援を実施しました。

セーブ・ザ・チルドレンのガザ地区や西岸地区の事務所には、近い家族や同僚を亡くしながらも必死で働くスタッフがあります。支援従事者も被災者であるガザ地区、自分たちも占領の憂き目にあっている西岸地区。極限の暮らしの中でも活動を続ける現地スタッフとともに、日本のスタッフも緊急支援のための後方支援や政策提言など、できることを日々全力で続けています。

2年にわたる戦争の末、パレスチナの子どもたちは、あらゆる側面で極めて深刻な状況に置かれています。パレスチナの子どもたちが、学び、遊び、安心して暮らせる日々が来るように、引き続きご協力をお願いいたします。

1. 「国連、ガザ飢饉の終息宣言も『状況は依然として深刻』」、時事通信 2025年12月22日
2. Reported impact snapshot / Gaza Strip (17 December 2025), OCHA
3. イスラエル、ヨルダン川西岸の入植地19ヶ所を承認、BBC、2025年12月22日
4. WEST BANK / MONTHLY SNAPSHOT: CASUALTIES, PROPERTY DAMAGE AND DISPLACEMENT AS OF 30 NOVEMBER 2025, OCHA, 2025年12月17日

# PARTNERSHIP INFORMATION

## Interview

「豊かな未来ファンド」を通じて  
子どもたちが笑顔で  
未来を描ける社会へ

リコーリース株式会社  
経営管理本部  
経営企画部  
ESG推進室  
鈴木 進大 様



## “子どもたちの幸せ”を中心に据えた支援活動へ

私たちは、2022年度より「豊かな未来積立金」として社会貢献積立金制度を導入し、セーブ・ザ・チルドレンをはじめとする多様な社会課題の解決に取り組むNGO・NPOなどへの支援、さらには大規模災害への義援金の拠出などを行ってきました。こうした活動は幅広い社会課題に貢献できる一方、どのような社会課題に注力していくのか、リコーリースグループとしての想いが分散してしまうという課題もありました。

リコーリースグループは「豊かな未来」の実現を経営理念として掲げています。豊かな未来の実現には、次世代を担う子どもたちの幸せが不可欠です。そこで、子どもの権利のパイオニアであるセーブ・ザ・チルドレンとパートナーシップを結び、昨年12月、新たに「リコーリースグループ 豊かな未来ファンド」を設立しました。本ファンドを通じて、国内外の子どもたちを取り巻く社会課題の解決に貢献し、“子どもたちが笑顔で未来を描ける社会”を実現するため、セーブ・ザ・チルドレンとともに、さまざまな支援活動を継続的、かつ機動的に実施していく予定です。

## 社員一人ひとりの意識を変えていきたい

今回のファンド設立をきっかけに、社内の社会貢献活動への意識もより一層高めていきたいと考えています。私自身も昨年、「子どもの食 応援ボックス」のボランティア活動に初めて参加し、社会貢献への考え方が大きく変わりました。これからは、社内に社会貢献の意識を広げ、より多くの仲間を巻き込みながら、子どもたちの未来を支える取り組みをグループ全体で進めていきます。



## Information



株式会社東京ユニフォーム

子どもたちの課題を  
自分ごとに。長年にわたり  
アジアの子どもたちを支援



ユニフォームの企画・製造・販売を手がける株式会社東京ユニフォームからは、2008年から長期にわたり、継続的にご支援をいただいています。子どもたちが抱える課題に企業としてどのような取り組みができるかを考え、2012年からは、主にアジアの子どもたちをご支援いただいています。

## ACCEA

株式会社アクセア

チラシやパネルなどの無償印刷と  
資金提供により子どもたちを支援



チラシやポスターなどの印刷を手掛ける株式会社アクセアからは、2015年より長きにわたって自社の技術を活かした無償印刷協力で、チラシやパネル、缶バッジなど私たちの広報物を作成いただいています。国内外の子どもたちに想いを寄せて、そのほか、現金寄付、募金箱の設置など幅広い形でご支援いただいています。

## IKETEI

株式会社イケテイ

FUJITAKAブランドの商品から  
国内外の子どもたちを支援



鞆・財布・革小物の企画販売を行う株式会社イケテイからは、2020年よりご支援いただいています。毎年選ばれるテーマカラーの商品を対象にFUJITAKAブランドの売り上げの一部をご寄付いただいております。セーブ・ザ・チルドレンが実施する子どもたちへの支援活動に活用されています。2026年はティール色の商品が寄付付きで販売されます。

## スタッフの一日

ウガンダ駐在員  
野本友愛さん



## ウガンダ (モロト県)ってどんな所？

モロト県はウガンダ北東部に位置する県で、2人に1人以上が1日1ドル以下で生活しています。また、約4割の子どもが慢性的な栄養不良です。栄養不良は体の発達だけでなく、学ぶ力や将来の可能性にも影響を及ぼします。

ウガンダ北東部で、干ばつに強い農業による農家の生計向上と、地域に根差した保健システムの強化を通じて、母子の栄養改善に取り組んでいます。

「エジヨカ？」(元気?)  
8:00 「エジヨク！」(元気!)

1

モロト事務所には28人のスタッフが勤務し、私のチームは9人です。朝ごはんのサモサを一緒に食べながら、1日の予定を確認します。

3 13:00 ランチ

事務所近くのローカルレストランでスタッフとご飯を食べます。ビーフシチューと豆、キャバツをご飯とスパゲッティに混ぜて一緒にいただきます。

5 17:30 退勤後&週末

日本食を自炊したり、友人とポットラックパーティーやテニスをしたり、国立公園にサイヤライオンを見に行ったりしています。

2 8:00~ 午前の仕事

今日は山を登り、川を渡って、栄養不良の子どもたちの家庭訪問へ。子どもの栄養状態や日頃の育児状況などの話を聞き、母親と一緒に改善方法について考えます。

4 13:30~ 午後の仕事

村の貯蓄組合活動を訪問。この組合は、1年間で約67万円を貯蓄しました。メンバーからは「子どもを学校に行かせたい」、「養豚や養鶏などに投資し、利益を再び貯蓄したい」など、前向きな声が多く聞かれました。

check

持ち物  
日差しが強いフィールドでは、水とサングラスが欠かせません。消毒液や虫よけスプレー、万が一に備えてスマホは2台持ち、モバイルバッテリー、常備薬、非常食も常備です。

## セーブ・ザ・CHILDREN・INTERNATIONAL 事務局長インゲル・アッシンが初来日

セーブ・ザ・CHILDREN・INTERNATIONALの事務局長、インゲル・アッシンが、1月28日から30日にかけて初めて来日しました。

セーブ・ザ・CHILDREN・JAPANの設立40周年を機に、人道危機や気候変動など不安定さを増す国際情勢を踏まえ、日本政府関係者との意見交換を行いました。

また、支援企業である株式会社ファーストリテイリング(ユニクロ)の東京オフィスを訪問し、日頃のご協力への感謝を伝えるとともに、今後の連携について話し合いました。加えて、紛争下で学校・大学を武力攻撃や軍事利用から守ることを目的とした国際的な指針「学校保護宣言」への日本政府の賛同を求めて実施したキャンペーンについて、ユースメンバー(大学生～大学院生)から活動報告を受け、意見交換の時間をもちました。セーブ・ザ・CHILDRENは、子どもの今と未来を守るためにこれからも活動を続けていきます。



インゲル・アッシン(写真右)と新田 幸弘ファーストリテイリング グループ執行役員(写真左)



ユースと対談したインゲル・アッシン

## アフガニスタン緊急子ども支援へのご寄付ありがとうございます

詳しくはこちら▶



2025年9月に発生した大地震への緊急子ども支援にご協力いただきありがとうございました。

2026年1月末時点で689万1,191円のご寄付が寄せられました。

セーブ・ザ・CHILDRENの支援は、保健・栄養、教育、子どもの保護、シェルター(仮設住居)、水・衛生・衛生管理、生計支援など多岐にわたります。引き続きアフガニスタンの子どもたちの今と未来を守るため、お力添えをお願いいたします。



©Fahim Mayar/Save the Children



Save the Children

[www.savechildren.or.jp](http://www.savechildren.or.jp)

セーブザCHILDREN 検索



セーブ・ザ・CHILDRENは、日本を含む世界約110ヶ国で子ども支援活動を行う、民間・非営利の国際組織です。子どもの権利が実現された世界を目指し、100年以上にわたり活動しています。

\*この冊子の印刷におきましては、株式会社 技秀堂にご支援いただきました。



この冊子はFSC®認証紙を使用しています。